

第154回くらしの植物苑観察会 2012年1月28日(土)

## 祝いと厄除けの植物たち

辻 誠一郎(東京大学・大学院新領域創成科学研究科)

### 「門松」ではなく「庭栗」

今年は平清盛がすでに話題の歴史人物となり、昨年、世界文化遺産に登録された平泉もすでに話題の歴史遺産として注目を集めています。そうになると、時代も平安末期から中世にかけての貴族から武家社会への重心移行期が話題となり、源氏物語や平家物語、源義経や奥州藤原三代が話題の人物に加わってきそうな状況です。そこで、奥州は平泉あたりの話題を最初に取り上げることにしたいと思います。

正月、松の内は、家の入り口に門松を立てるのが古くからの民俗で、日本どこへ行ってもそうであるかのように思えるのですが、実はそうとばかり決めつけるわけにはいかないのです。入間田宣夫さんが「骨寺村所出物日記にみえる干栗と立木について(覚書)」という論説を書いておられるのですが、その中で、平泉あたりの磐井の里では、正月飾りの基本は庭中に立てられた栗の木だったことを取り上げています。栗の木の根元には「つま木」が束ねて置かれており、これも栗の木だったようなのです。これは、天明6年(1786)に平泉あたりを訪れた菅江真澄の旅行記『かすむこまかた』に記されていたのです。「何事も、胆沢ノ郡とはことにして、としの始めの門松も、栗の木を庭中に立て、つま木をあまとり束ね置て」という記事です。詳細は論説にゆずることにして、おそらく平安時代から中世における山間の集落では、栗の木はシンボリックな存在であったことを示すものとして注目しておきたいと思います。東北地方だけでなく西日本の紀伊山地においても、あるいはまたその他の地域においても、栗の木は山間の集落においては生活の中で重要な位置を占めていたことが察せられるのです。当時の荘園に関する記録では、水田・畑と同等に栗の林が育成されていたことがわかっているのです。縄文時代の三内丸山集落においても栗の木は生活において重要な位置を占めていたと考えられますが、縄文時代以降も、文化や政治が大きく変わったといっても、栗の木はシンボリックであり続けたといえるかもしれません。

### 豊作や一年の健康・福来を祈願する

生活の中で欠かせない重要なものがシンボリックな存在となっている事例はたくさんありますが、その代表は稲(米)ではないかと思います。水田稲作農耕を営むようになってから、稲をつかさどる神様に稲(米)をお供えして感謝し、また、その年の豊作や家族の健康を祈願することは日常のことでしたが、とくに正月行事には象徴的なものを見ることができます。養蚕を営む農家では、繭玉に見立てた紅白

のだんごを桑の木の枝につけて豊作や健康を祈願したのですが、養蚕そのものが衰退してしまった今日ではそれも見かけることが少なくなりました。

このような行事は正月を中心に各地で行われてきましたが、とくに1月14・15日の小正月を中心に行われてきました。その行事はなかなか複雑ですが、大きく二つに分けることができそうです。一つは上で述べたような農事にかかわるもので、その年の豊作を祈願するいわゆる予祝と呼ばれる行事です。モノツクリや削り花など、ここでは稲を中心にしてその豊作を祈願するのにたくさんの植物がかかわっているのです。もう一つは、年占いや災厄を祓い、魔よけを行う行事です。道祖神のお祭や左義長と呼ばれる火祭りなど火と密接なかかわりをもつ行事が多数見られます。両方にかかわる行事が今も行われているところもあります。

### 黄色や紅白の花々

新年を迎えるのは冬です。1月から2月は新年を迎える行事が集中しますが、多くの植物にとっては春を待ちつつじっと寒さに耐えている季節でもあります。そんな中で、いち早く花を咲かせてくれる植物は、その年の豊かさや健やかさを予感させてくれます。また、雪に見舞われた日などは、黄色い花や紅白の花が咲いているとそれだけで元気をもたらしたような気分になります。

黄色というよりは黄金色の輝きを放っているような福寿草は、その名のごとくおめでたい植物の代表でもあります。江戸園芸を代表する植物でもあるのです。福寿草は草ですが、初春に黄色の花を咲かせるのは圧倒的に木が多いのです。中国からもたらされた蠟梅(ろうばい)、どちらかといえば東北地方に多い満作(まんさく)、少し開花の時期は遅れますがこれも中国からわたってきた春黄金花(はるこがねばな、さんしゅゆ)、和紙の原料になる三桎(みつまた)、木付子(きぶし)など、黄色い花たちが次から次へと咲き誇っていきます。黄色は福寿草のように黄金色でもあり、太陽の色でもあることから、春を告げる植物であり、祝いの木になっているものが多いのです。

紅白の花といえば、右に出るものがないのが梅でしょう。梅は桃とならんで弥生時代から古代にかけて日本にもたらされた重要な木で、日本の文化に深くかかわってきました。庭木に欠かせない梅。でもなぜ桜のように並木にはせず庭や梅園なのでしょう。梅は祝いにも厄除けにも大きなパワーをもっていると信じられてきましたが、それはどうしてなのでしょう。

.....

**次回予告** 第155回くらしの植物苑観察会 2012年2月25日(土)  
 「みかんの戦後—甘さと安全性のあゆみ—」 原山浩介(当館研究部歴史研究系)  
 13:30~15:30(予定) 苑内休憩所集合 申込不要